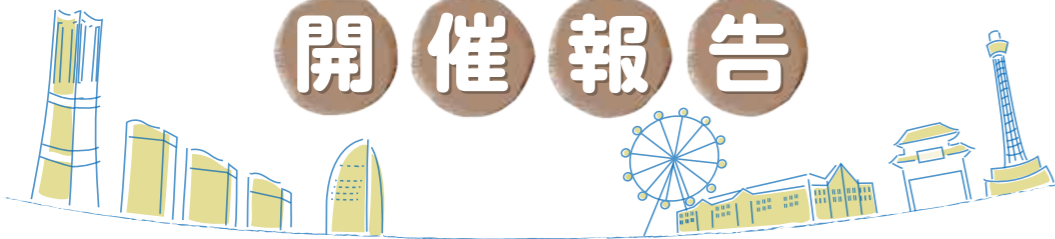


ワーカーズ・コレクティブ 全国会議 in 神奈川

開催報告



分科会 2月19日 14:00~16:30 全体会 2月20日 13:00~16:00

2年に1度のW.Co全国会議が16年ぶりに神奈川で、しかも初めてオンラインで行われました。現地実行委員会は理事会メンバーで形成し、準備を進めました。かなめはなんとオンライン開催がうまくいかどうかでした。連合会の事務局を委託しているLargoのメンバーが細かいところまで確認をし(トピックス参照)、神奈川の底力で乗り切ることができました!



協同と連帯による持続可能な社会づくり ～生産手段と地球を「コモン」として～

全体会の参加人数:同時視聴者数587人 配信終了時点での再生回数:1,259回

全体会

全体会は、WNJ代表の藤井恵理さんの挨拶からはじまり、来賓のご挨拶と前日の6分科会の報告を経て、基調講演へと進みました。経済思想家の斎藤幸平さんが、著作の『人新世の「資本論」』からいくつかのキーワードをあげながら、その考えをお話しされました。

気候変動と経済危機で慢性的な緊急事態に陥っている現在、以前の有様に戻るには破局への道であり、別の道を模索する「グレート・リセット」が必要なこと。経済成長ありきでない「脱成長」を選び、分断・格差・孤立を乗り越えるために協同労働が必要なこと。人々の暮らしに必要なことについては、「コモン」(私有でも国有でもなく自分たちで維持管理するや

り方)を選び、増やしていくことが重要であるとの内容でした。

その後、【事例1】として、神奈川W.Co連合会から、食を中心とした地域のワーカーズや他団体との連携についてと、セーフティネットを広げ安心して暮らせる地域社会を作るための事業の広がりについて発表がありました。【事例2】として、NPO法人W.Co協会から、生きにくさを抱えている人たちの就労支援事業として「はたらく・ざま」における生活クラブ生協との共同事業の取り組みについて発表がありました。非営利・協同の連携で困窮者支援を進める実態づくりとなり、地域を開拓し、一緒に考え行動する仲間を増やすことがまちづくりにつながったとの内容でした。【事例3】は、生活クラブ神奈川より、第11次中期計画(2021年～2025年)の基本テーマと、ローカルSDGsで新しい運動と事業を地域でつくることを思い描こ



斎藤氏による基調講演



うという話、また神奈川・ワーカーズコレクティブ運動推進協議会においてのワーカーズ・コレクティブ(協働労働)を真ん中においた地域社会をつくるという共有ビジョンの説明がありました。

まとめとして斎藤さんより、社会を立て直していく重要性は明らかで、発表の中に具体事例があったこと、閉塞感をもつ人は多いので、別のやり方・ビジョンを提示し、共鳴した人で実践し、うねりをつくっていく、そこで大切なのは「楽しそうであること」とのコメントがありました。最後に現地実行委員長の木村さんより、自信をもって運動や事業に取り組んでいこうと挨拶があり、閉会となりました。(城戸裕子)

第1分科会

孤立と分断に立ち向かう これからのワーカーズ・コレクティブ運動 ～労働者協同組合法成立から見える成果と課題～

参加者 207人

「ワーカーズ・コレクティブ≠労働者協同組合」というワードがとても印象に残りました。私たちW.Coは法律の中には収ま



らず、多様で独創的に地域と関わり事業を展開しています。この分科会では私たちが行っている

ことや目指していることを再認識する機会になりました。今後地域には労協法を活用するW.Coがある一方で、必ずしも活用しない小さなW.Coや有償ボランティアのような働き方もあって、それらがどう連携をとって地域を作っていくかが重要になります。私たちの目指す地域社会づくりに向けて考えなければいけないことがまだまだ多いと実感しました。(柴田浩美)

第2分科会

配送ワーカーズの価値を 活力ある地域づくりにいかそう

参加者 162人

基調講演として生活クラブ連合会伊藤由理子会長より、第6次中期計画から第7次に向けて共同購入事業をどう位置付けるか。ポストコロナの社会づくりでW.Coは生活クラブの最大の「武器」で、その存在価値をまずW.Co内で共通認識し、自己表現をして事業に生かしていくべきと考える。それが生活クラブにとっての社会的連帯経済の具体化になるとお話をいただきました。パネラーの配送

W.Coから、福祉的配送の事例や新しい共同購入「コモンズステーション」について、組織合併から配送以外の事業事例、福島での配送立ち上げについて、単協からは配送W.Coから派生して生まれた新しいW.Co、そしてW.Coに期待することなどのお話を聞くことができました。(吉川礼子)



第3分科会

地域の人々と共に ～多様な人々つながり、 たすけあって暮らしていける地域づくり～

参加者 136人

ふれあいっこ三ツ沢の小川さんは、「想いを言葉にしたら一緒に活動をする仲間が広がった」と。まちの縁がわ「木々」鈴木さんは、「ハチドリひとしづくになればいい。今できることを楽しくやる」と。自分の思いを言葉にして発信し続けることで、思いを受け取ってくれる人は必ずいるということ。ファミリーホームの赤塚さんは「権利として子どもがここにいるためには、『やってあげた』の思いはダメ」と。思いが

なければ始まらないけれど、継続していくために資金や場所、人の確保の難しさや、現場からの声で制度を変えていくことも大切であると感じました。(瀬下草子)



第4分科会

作って売って、日本の食を守る 地域で頑張るワーカーズ

参加者 99人

～経営改善で持続可能なまちづくりを～

第4分科会では、日本の生産者を守り、作り続け、売り続ける(食べ続ける)ことで地域に根付き頑張っている食のW.Coの話が発表されました。どうしたら事業を残せるか?やりたいことを継続できるか?をとことん話し合い、実行してきた元気の出る発表でした。

一度解散し、再結成した埼玉の「キッチンとまど」の「65歳はまだ若い!100歳まで

働ける場づくり」の話は「地域にこんなW.Coがあってもいいかも」と思わせてくれました。食のW.Coはピンチをチャンスに変えて頑張っていきたいです。(島田文子)



第5分科会

持続可能な 「共にはたらく場」づくりを考える

参加者 89人

「ともっと事業体」「わくわくかん」「ミズキャロット」からのソーシャルファーム事業の事例報告がありました。藤木さん(ともっと事業体)が生活クラブの仕事起こし講座を受けてW.Coをつかった話を聞き、どんなエッセンスを受け取って起業に奮い立ったのかと興味が湧きました。ど

の団体からも「ともに動く」を実践し、実行力があって継続していて、発表の言葉に重みを感じられました。後半では、チャットに挙げられた参加者からの質問に答え、さらに理解が深まりました。受け取った言葉をヒントに私の実践にもつなげていきたいと思いました。(木野久美)



第6分科会

それぞれの得意分野を持ち寄って 地域でゆるやかに連携し、 人と人をつなぎ合わせよう!

参加者 163人

コワーキングスペース「チカラボ」代表清水さんが、設立のきっかけから今に至るまでのお話をし「だれでもみんなチャレンジしてみよう!自分らしさを大切に、世代を超えて共感できる仲間もできる。地域でつながる何かをやってみよう」という気持ちになりました。かわさき生活クラブ生協福本理事の報告では

「デポータかつフードバンクチームが、とにかく、みんなで話合い、改善を重ね、ランチのワーカーズと共に活動している」と熱い思いを語りました。また北海道、関西の事例はそれぞれの状況下で地域に寄り添い、活動が生まれていると感じられました。活動報告の中の「多様な人の力」に感銘をうけました。(高橋静子)

